

ふじみ野市放射線測定等に関する対処指針解説

1 目的

空間放射線量について、市民からより多くの施設及びホットスポットと言われる箇所の測定を求める要望を数多くいただいております。ふじみ野市は市民からの要望に応えるため、国等の対応方針を踏まえ、比較的孩子もたちが多く集まる公共施設や公共用地など、より身近な生活環境を優先した放射線量の測定、除染の対処方法を示すことにより、市民の安心確保に資することを目的とします。

2 対象施設

測定箇所は、市が管理する公共施設・公共用地とし、市内の小・中学校、市立保育所、公園など及び道路側溝

3 測定場所等

(1) 市内の小・中学校、市立保育所、公園などの公共施設・公共用地は、子どもが集まる場所を中心に2ヵ月に1回測定

道路側溝については適時測定

(2) 周辺より比較的高い放射線量を発生している箇所を特定することが必要であることから、文部科学省及び日本原子力研究開発機構が示した「放射線測定に関するガイドライン」（平成23年10月21日）に基づき実施し、高い線量が予想される箇所（A．雨水が集まるところ及びその出口、B．植物及びその根元、C．雨水・泥・土がたまりやすいところ、D．微粒子が付着しやすい構造物）を適時測定します。

(3) 測定には、簡易測定器（PA-1000型）を使用します。

4 測定結果の公表

市が実施した公共施設・公共用地の測定結果は、ふじみ野市ホームページなどにより公表します。

5 空間放射線量の目標値

ふじみ野市は、地上5cmの空間放射線量目標値を毎時0.23μSv以下、道路側溝については、地上50cmの空間放射線量目標値を毎時0.23μSv以下とします。

*環境省は、東京電力福島第1原子力発電所の事故とは関係なく、自然界には元々放射線量が存在し、大地からの放射線量は毎時0.04μSvとしています。

これに、追加被ばく線量毎時0.19μSvを加えた、毎時0.23μSvが地上1mにおける追加被ばく線量年間1mSvにあたるとしています。

6 目標値を超えた場合の対応

公共施設・公共用地については、国等の対応方針に従い、簡易な除染（泥土や枯葉の除去、地表面のはぎ取り、落ち葉の回収、側溝の泥の除去）を行い、除染方法及び汚染集塵物の取り扱い方法は、日本放射能安全管理学会が示す「個人住宅を対象とするホットスポット発見／除染マニュアル（平成23年7月15日）」に基づき、施設主管課は環境課と連携して実施します。

7 公共施設・公共用地以外の取り扱い

(1) 市所有の簡易測定器による測定

ア 市内の私立幼稚園、認可・無認可保育所等の準公共施設・用地については、施設管理者の判断により、放射線量の測定が必要と認めたときは、12月1日から環境課が簡易測定器（PA-1000型）の貸し出しを行い、管理者等が測定を行うものとします。

イ 個人宅及び事業所等についても、アに準じた取り扱いを行うものとします。

ウ 測定の結果、市が定めた目標値を超えた場合は、環境課等の職員が施設管理者等の立ち会いの上、シンチレーション式サーベイメータ（NH C 7型）による再測定を行うものとします。

(2) 市民等が所有する測定器による測定

市民等の自主的な測定により数値が高かったとして通報を受けたときは、状況の聴取や確認を行い、対応の経過及び測定結果の記録（別紙1）を受け、通報者立ち会いの上、環境課等の職員が市のシンチレーション式サーベイメータ（NH C 7型）を用いて再測定を行います。

(3) 測定を行っていない通報の場合

市民等の感覚のみによる通報については、上記(1)に準じ、市民等の自らが対応するものとする。

(4) 目標値を超えた場合の対応

空間放射線量の目標値毎時0.23 μ Svを超えた場合の除染は、施設管理者等が対応するものとします。

8 その他

(1) 自然界の放射能

私たちは元々、大気や食品などを通して自然界の放射線を受けており、その量は全国平均で年1.5 mSv程度とされています。

東京電力福島第1原子力発電所からの放射性物質が出ていなくても、自然界には普通に放射性物質が存在しています。このため、人は日々の普通の生活の中で被ばくしています。また、この自然界からの被ばくには宇宙線や大地からの被ばく（外部被ばく）と吸収・食べ物から体内に放射性物質が入って起こる被ばく（内部被ばく）があります。

自然放射線による年間総量の世界平均は2.4 mSv、日本の平均は1.5 mSvとされています。（＊埼玉県における放射線の影響に関するQ&Aより引用）

(2) 用語の解説

ア【放射線量年間1 mSv】

文部科学省は、「学校において受ける線量の計算方法について（平成23年8月26日）」を示しており、1日のうち屋外に8時間、屋内（遮へい効果0.4倍）の木造家屋に16時間滞在するという生活パターンを仮定しています。

＊毎時0.19 μ Sv \times （8時間＋0.4 \times 16時間） \times 365日 \div 1 mSvです。

イ【Sv（シーベルト）】

放射線による人体への影響度合いを表す単位です。

Svの数字が高いほど、人体（健康）への影響度合いが大きいことになります。

1 mSvは1,000 μ Svです。

ウ【Bq（ベクレル）】

放射線を出す能力を表す単位です。

1秒間に1つの原子核が崩壊して放射線を出す放射能の量が1 Bqで、数字が高いほど、たくさんの放射線を出すことになります。

No. _____

市民からの通報記録

平成 年 月 日受付

(住 所)

1 通 報 者 (氏 名)

(電話番号)

2 通報場所

3 測定器の名称

4 通報された放射線量

測定日 月 日

No.	測 定 箇 所	地上 5 cm の測定 数値	地上 5 0 cm の測定 数値	その他の測定 数値
1				
2				
3				
4				
5				
6				

5 職員による測定結果

測定日 月 日

No.	測 定 箇 所	地上 5 cm の測定 数値	地上 5 0 cm の測定 数値	その他の測定 数値
1				
2				
3				
4				
5				
6				

* 測定場所を裏面に記載して下さい。

(略図)